

このスポット・おすすめ!

読谷やちむんの里に誕生した新スポット

CLAY Coffee & Gallery



個性豊かなスペインリテイー
コーヒー豆を使った自家焙煎コー
ヒーが味わえるカフェが、読谷
やちむんの里内に昨年11月オー
プン。読谷山焼北窯で作陶する
松田共同さんのギャラリーを兼
ね、お店で使用する器はすべて
共同さんのオリジナルです。
「店の冠名をCafeではなく
Coffeeとしたのは、」コーヒー
で勝負したかったから。父の作
品に格負けしないものを提供し
なければと気合が入りますね」と
話すのは店主の松田創さん。打ち
放しのコンクリートと木に包ま
れたやさすき深い空間で、親子が
奏でるすききなコーヒー&フ
ードが楽しめます。

コーヒーは単一農園の豆だけ
を使った「シングルオリジン」
が中心で、エチオピア、ケニア、ブ
ラジルなどを用意。なかでもエチ
オピアの豆は、国外進出を果たし
たばかりのもので、名実ともに他
では出会えない「激レア」な一杯
です。
料理は専属のシェフが担当し、
欧風ビフカレーをはじめ3種
類のメニューをランチタイムに
そろえる他、サンドイッチと自
家製スイーツはオールタイム注
文OK。さらにはギャラリーに
並んだ共同さんの作品や、窓
の外に広がる緑の木々が居心地
を高め、「ふらっと自然豊かな山
中を訪れた気分」、時間を気に
せずくつろいでもらえれば」と
創さんは話しています。

住所 / 読谷村座喜味2648-7
営業 / 11:00~18:00
(ランチタイム~14:00)
※ラストオーダー 14:00
休み / 日曜・木曜
HP: <http://claycoffeeandgallery.com>
Instagram: [clay_coffeeandgallery](https://www.instagram.com/clay_coffeeandgallery)
【おもなメニュー】
●ランチタイム
・ビーフカレー.....1500円
(サラダ・ドリンク付き)
・タコライス.....1400円
(スープ・ドリンク付き)
・ポロネーゼ.....1450円
(パン・サラダ・ドリンク付き)



読者

なぞなぞに 読者 答えて
プレゼント

このスポット・おすすめコーナーで紹介の『CLAY Coffee & Gallery』で使える

2,000円分
お食事券

3
名様



お寿司ではない!

Q なぞなぞ
おすし屋さんで
続けて食べると、
やせちゃう物って何?

1月号当選者 前号の答え(②かきぞめ)

- ★山田 奈奈さん(読谷村在住)
- ★平良 善成さん(宜野湾市在住)
- ★中山 武子さん(読谷村在住)

ワイワイ広場

読者プレゼント応募方法

宛先
読谷村字伊良智237-1
ウインズ
『広報誌係』

①住所 ②氏名
③年齢 ④職業
⑤電話番号

⑥なぞなぞの答え
⑦ご意見
ご感想

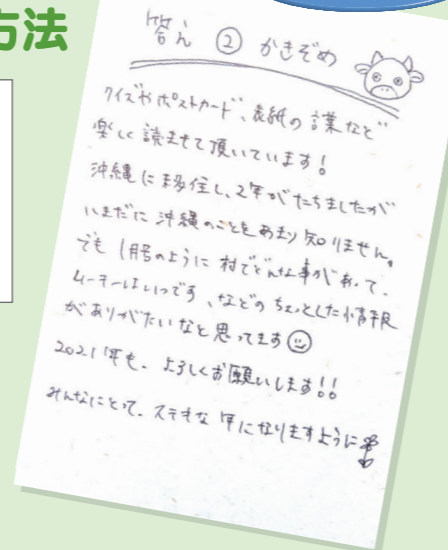
応募者の中から抽選で、
読者プレゼントを進呈致します。
どしどしご応募下さい!

締め切り

2021年2月20日消印有効
「当選者は次号(Vol.198)にて発表致します」

『Freshウインズ』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様に配布致しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。(ウインズ広報誌係)

お便り紹介!



Fresh ウインズ

人と人のつながりを大切に...池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報誌



読谷村の村花【ブーゲンビリア】

読谷村想い合ち手作りマスク1000人プロジェクト

読谷村在住の中村喜美枝さん
親子から、300枚の手作りマスク
の寄贈を受けたことを機にスター
トしたプロジェクト。有志の皆さん
から届いた手作り・市販マスクを、
読谷村内で必要とする方や施設
へ提供します。



受付先: 読谷村役場 1階 福祉課 tel. 098-982-9209

桜前線が徐々に南下し、プロ野球キャン
プインの声を聞くと、沖縄の短い春の訪れを感じま
す。今年の立春は暦の関係で、例年より一日早
い2月2日。これは1897以来124年ぶりなんだ
とか。私たちは今、いろいろな
意味で、歴史的に珍しい時代
を生きています。



↑那覇市 役場手納町 名嘉病院 エネオス ウインズ 読谷高校 ファミリーマート おきなわ 養蜂舎 道の駅 養蜂舎

↓那覇市 読谷村 読谷村役場 読谷村役場 読谷村役場 読谷村役場

(株)池原建設 企画事業部ウインズ
〒904-0303 沖縄県読谷村字伊良智 237-1
営業時間 / 9:00~18:00 (年末年始を除く)

住宅のメンテナンスや
補修等のご相談は、お気軽に
スタッフへお声掛け下さい!

☎0120-229-512 ウインズ 池原建設 検索



2020↓2021 今、自分たちができることを着々と。想いを合わせて新しい時代を拓く、読谷村の取り組み



「子どもからお年寄りまで、新しい生活様式に無理なくなじめる仕組みづくりに取り組みたい」と話す石嶺傳實・読谷村長。HPやLINEを通じた情報発信にも力を入れています

世界中がコロナ禍に追われた2020年。村民一丸となつて未曾有の危機を乗り越えるために、読谷村が講じたさまざまな取り組みは、各方面から多くの注目を集めました。石嶺傳實・読谷村長に、「ゆんたんざ」の地域柄を生かした独自のプロジェクト展開について聞きました。

“想い合ち”の心から生まれる、垣根を越えた幅広い取り組み

現在のコロナ禍のような危機に際し、行政に求められる大きな役割は、住民の安全確保と将来を見据えた環境整備。もちろん国・都道府県・市町村によって提供できるサービスはそれぞれ異なりますが、住民に最も近い目線で、地域の特性に合わせた施策を展開できるのは市町村レベルといえるでしょう。新型コロナウイルス感染症対策に関連して、2020年度に読谷村が講じたプロジェクトは、議会の承認を経



読谷村座喜味の中村喜美枝さん母娘からの寄贈で始まった「手作りマスク1000人プロジェクト」。今年1月末時点で延べ3万3000枚以上が集まりました

短期間で迅速に、これだけの取り組みが実行された背景について、石嶺傳實村長は「想い合ち(うむいあわち)の心が村民一人一人に深く宿っている」ことをポイントに挙げます。「利他の気持ちが強ければこそ、各職業・団体の垣根も低くなり、横の連携が取りやすい。だから誰かが手を挙げたら、すぐにたくさんの同志が集まってアイデアを持ち寄り、スピーディーに形にできるんです」。今やオンラインで世界中がつながったグローバルな時代。共感の連鎖は瞬時に海を越え、県外・海外にも広がりを見せています。

コロナ禍で二回と深まった全国の読谷ファンとの絆

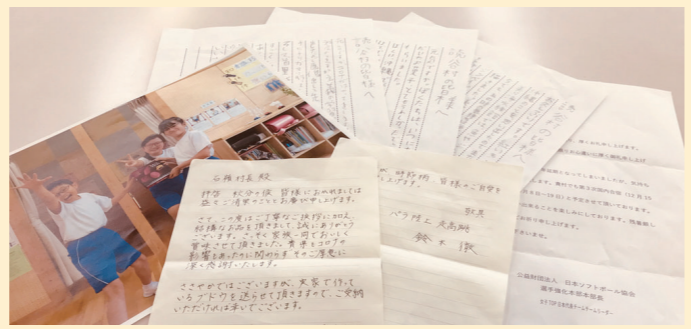
世界的に人の往来が制限されたことにより、観光需要は大きく減少。旅行業・宿泊業はもとより、地域の多くの産業に深刻な影響が生じました。例えば読谷村ではスポーツキャンプの誘致にも積極的に取り組み、2019年度は野球、ソフトボール、ラグビー、サッカー、陸上競技など29団体もの合宿実績があったものの、本年度は1月末日時点で3団体のみ。キャンプに訪れる予定だった選手・チームにとっても「行きたくても行けない」厳しい状況が続いています。

「よみたん大好き!めんそ〜れプロジェクト」は、コロナ禍で経済的に甚大な影響を受けた村内事業所の支援を目的にしたものです。コロナ収束後の観光需要回復を見据えてリピーターとのつながりを保つために、スポーツキャンプや民泊などで読谷村を訪れたことのある関係団体に向けて、各事業所から買い上げた特産品をビデオレターと一緒に贈りました。すると思いがけない展開が生まれました。「全国各地の送り先から、たくさんの手紙や写真が返礼



「よみたん大好き!めんそ〜れプロジェクト」では、村内事業所の事業継続支援を目的に特産品を購入

で届いたんです。「来年は絶対に読谷へ行く!」、必ず再訪するから待っててね!」等々、うれしいメッセージが多数添えられており、皆さんとの絆がより一層深まったと実感しました。単なる行政事業という枠を超えた事態に発展したのは、これまで培ってきた交流実績があつたこと。石嶺村長は「集まった感謝の声を一人でも多くの方に見てもらうために、役場の入り口に展示しよう」と計画しています。



贈呈先の県外関係団体から、続々と届いた感謝状やお礼のメッセージ。電話も多数寄せられています

イベントも毎日の生活も新しい方法で安全・便利に

昨年の「読谷まつり」は村内すべてが祭り会場。従来のように人が集まる会場を設けず、新しい生活様式を考慮して、オンライン・リモート主体で開催されたことは記憶に新しいところです。テイクアウトできる飲食店の情報を幅広く周知し、当日夕方からさまざまなプログラムを動画で配信し、最後は村民全員でリアルな花火観賞を楽しむという三段構成で実施されました。もちろん主催者にとつては何から何まで初めての試みでしたが、こんなときだからこそ前述の「ゆんたんざ」らしさがいかに強く発揮され、構想段階から関係団体や参加者との連携は密に取れ、当日の進行もスムーズ。「読谷に縁のある県外・海外在住者がリアルタイムに参加できたこと、花火の打ち上げ場所を従来の座喜味地区に加えて大木地区にも設定し、村内全域から鑑賞できたことは、新しいスタイルならではの成果です」と石嶺村長は振り返ります。

オンラインを活用した同様の取り組みは他にも広がっています。例えば村生涯学習課が主催した昨年12月の「まなびフェスタ」は、人数を制限した縮小開催になりましたが、オンラインによるゲームイベントには県外からのアクセス客777名を含む1250名が参加。またスマホアプリとカードを使った非接触式の電子商品券「よみペイ」は、リリースから一カ月もたたないうちに予定数量に達するなど、「新しい生活様式」への移行が着々と進んでいます。折しも今年1月20日には、沖縄県から3回目となる緊急事態宣言が発令されました。昨年来、読谷村では「信頼のおける情報を分かりやすく正確に」伝えるべく、



「新しい」読谷ライフを楽しむために、キャッシュレス&オンラインの取り組みが着々と広がっています

ホームページやLINEを通じた発信を強化しており、「今できること全てに、全力で取り組む!」と行政の司令官として改めて決意、想いを合わせて難局を乗り切った先には、今以上に住みやすい、新しい読谷ライフが待っているはずだ。